

●第16回委員会 会議要点録

平成18年6月8日 18時30分～21時
多摩市役所 特別会議室

出席者：檜垣正巳委員長 白鳥光洋副委員長 岡崎和子委員 小澤尚子委員 武智秀之委員 堤香苗委員

事務局：企画政策部長 企画課長 企画調整担当主査 企画課主査 企画課主事

説明者：情報推進課長 情報推進課広報係長

第4回評価部会

(1)外部評価対象事業「コミュニティセンターの運営」について

今後の予定

- 第17回 6月19日(木曜) 18時30分
- 第18回 7月6日(木曜) 18時30分

【自治推進委員会】

委員 第16回自治推進委員会を開催する。本日は前回に引き続き評価専門部会を行うので、座長に進めていただく。

【評価部会】

コミュニティセンターについて(まとめ)

委員 前回は利用のあり方について話し、「もう少し自由に使えるとよい」「企画事業のあり方として、運営協議会同士や関連団体で連携したり意見交換をしたりすることが必要」「利用のあり方について、団体登録があるので個人が自由に使えない」等の意見が出た。

委員 前回までの意見はここでほぼまとめられていると思う。後は評価の公表方法をどうするかであり、他の評価とあわせて考えれば良い。

委員 では、その件は次の議題の後にあわせて検討する。

広報について

- 委員 ①(マル1)多摩市公式ホームページのアクセスランキング、もう少し長期間の推移がわかるような資料が欲しい。100位まではいないが。
②(マル2)前回のホームページデザインのリニューアルのポイントとその理由。
③(マル3)日々の改善例。
戦略的な広報を行っているのか。
- 事務局 ①(マル1)アクセスについては、次回にできるだけ用意する。傾向としては施設案内を見る人は多い。
②(マル2)前回のリニューアルは平成15年10月に行った。現在、このアンケートも参考に、職員ワーキングで再リニューアルを検討中。
③(マル3)日々の改善例で、最近のケースは、市民からの要望により施設の紹介頁にアドレスを入れたこと等。それにより、直接所管への質問、要望が出せる。
- 委員 多摩市の施策を内外に出している例は。例えばポスターはわかりやすい媒体と思う。
①(マル1)市作成のポスターはあるか。
②(マル2)市の掲示板に貼るものは何か。
③(マル3)市の掲示板と公民館の掲示板との違いは。
④(マル4)報道機関は対象か。
- 事務局 ①(マル1)イベント用PRとしては作るが、市をPRするポスターはあまり作っていない。②(マル2)市民団体の催し物のお知らせ、官公署のポスターが多い。他に、きれいなカラーのポスターではないが各所管作成のチラシなど。③(マル3)公民館の方が、多少取扱いの対象枠が広い。④(マル4)自治基本条例の施行規則でも、報道機関を対象にした情報提供を規定している。「自治基本条例に基づく情報共有の手引き」をご覧頂くと、つながりがわかるかもしれない。
- 委員 記者会見の実施状況は。例えば、目標として何回リリースが載るようにする、など。
- 事務局 定例のもの、特別な出来事など、年間ほぼ60件出している。記者との話の中では目新しい事業、地域の特性にあった事業をリリースしているとのこと。他市の広報担当の方と集まって話すときにも、多摩市と比較して特段に多くリリースしているところはないと聞いている
- 委員 ホームページは不特定多数が対象になり、広報の対象は限られるが、見てもらえる可能性が高いという特徴がある。市は、それぞれの媒体に重複した情報載せているのか、それとも媒体により情報を限定しているのか。
- 事務局 厳密に限定してはいないが、緩やかな使い分けはしている。たま広報に載せるお知らせの中で、地域の情報であれば、エフエム多摩、多摩テレビに積極的に知らせている。又、緊急性の高いものや、紙面に限りがあるためたま広報に載せるこ

とが出来ないものは、ホームページに記載している。

委員 たま広報の届かない人、ホームページを見ることのできない人はどのくらいいるのか。

事務局 広報は 56,000 部の新聞折り込み、駅のスタンド等市内 50 箇所での配布、郵送により、できるだけ多くの人に届くよう努めている。なお郵送については、高齢者や障がい者など取りに来るのが難しい方には無料、それ以外の方には有料(送料実費)としている。

委員 新聞折り込みはやめて、コミセン等の施設のみの配布にすることはできないか。

事務局 配達されるから自然に目に触れている方が多いと思われる。取りに行くようになると、全体の 4 分の 1 を占める「ざっと目を通す程度」という方が減ると思われる。

委員 公共施設や駅の配布は、よく利用されているか。

事務局 号によって、異なるが、出張所や駅からは、追加の要望も多い。

委員 ①(マル1) 広報の頁数には根拠があるのか。紙面が足りず載せられない原稿も多いのでは。

②(マル2) 広告の掲載は不可能か。

事務局 ①(マル1) 8ページの明確な根拠はと問われると難しいが、「ざっと目を通せる」レベルは8ページ程度が限度ではないかと考えている。正直に言って予算の兼ね合いもある。必要に応じ、6ページにしたり 10 ページにしたりと工夫している。

②(マル2) 広告を掲載している自治体もあり、不可能ということはない。現状としては、紙面の限界があるので、他の記事を削って載せるのはきつい、と感じる。

委員 広報は、知ってもらうことが重要。新聞をとっていない世代が積極的に広報を求めようになるには、広報が面白いと評判を立てること。

例えば、3年間は試しとして様々な大きさを試してみたり、大学生と協働で作ってみたりと、持ち歩きたいような広報、皆が走って取りに行きたい広報、休日診療だけ切って冷蔵庫に貼りたくなるような広報作成の可能性を探ってはいかがだろう。多摩の著名な写真家の写真を、ホームページと広報で同時掲載するのも興味を引く。カラー印刷では費用がかかるので、広告枠を企業に買ってもらう、など。現状が悪いわけではないが、もっとチャレンジしても良い。

事務局 たま広報をカラー刷りの特集号を A4 で出したことがある。「広告のカラー印刷と混ざってしまう」、と不評で、たま広報として定着したイメージがあることがわかった。試行錯誤を経て今の形に戻り、特別なお知らせはたま広報の中に折り込みを入れるなどの工夫をしている。

委員 定番のイメージがあるのもわかるが、変化をつければ読者層が変わるので、色々試してみてもいいのかと思う。

委員 年配はたま広報、若い人はホームページを見る特徴がある気がする。

委員 本日提供の資料を見ると、それぞれの世代がそれぞれに身近な媒体を用いて情報を得ているのがわかる。どの媒体でも多く求められている情報は、市民サークル、市民のひろば、講座など。これから高齢化で地域に目を向ける世代が増えるとその傾向は増大すると思われる。その部分の充実、見易さなどの手立てが更に求められる。

エフエム多摩は若い人が比較的聞いているものの、一般の家庭ではあまりラジオを聞く環境がない。広報を読まない世代、ラジオを聞かない世代などそれぞれの傾向を把握し、情報の内容と対象により媒体を使い分ける必要がある。

委員 ①(マル1)ホームページアクセスランキングで「ふるさとマップ」関連が複数出て来ることの説明を。

②(マル2)Yahoo(ヤフー)の地図など、他の地図との相違点は。

③(マル3)同様に、たま広報関連の複数の表示についての説明を。

事務局 ①(マル1)複数出て来るのは、地図を分割して掲載し、アクセスの単位が分かれているため。

②(マル2)他の地図との違いは、多摩市の地域情報が多く掲載されていること。おそらく、直接地図にアクセスするのではなく、施設情報などをまず調べた後、その場所の確認のために地図にアクセスする利用が多いと思われる。本体の「ふるさとマップ」は紙の地図で、最初の全戸配布と転入者には無料、その後は120円でお買い求め頂いている。

③(マル3)たま広報も、各号の目次画面とその下層の各ページと、アクセスの単位が分かれている。

委員 特定の紙面に特にアクセスが高いのは。

事務局 そこに多くの人の興味を引く記事が載っていたのだらう。

委員 情報が届かない層はどこと考えているか。

事務局 推測だが、ひとり暮らしの学生に市政情報が届きにくいと考えている。新聞はとらずインターネット情報を得るが、特に市には興味はないのでアクセスしない、という人。

委員 学校に広報は置いているか。

事務局 置いていない。

委員 環境関連の集まりでも、学生はゴミの収集方法の変化などの情報を殆ど知らない、知る手立てがない、と話題になる。

事務局 確かにその傾向はある。環境部では大学の新生説明会で説明をさせてもらうなどの試みを始めた。他の分野でも、地域の啓発等をポスティングするなど工夫している。

委員 多摩市で働いている人にも情報提供する方が良い。ターゲットを絞りそれぞれ異

なる広報をするにはeモニターなども効果的。

委員 市の境の地域の新聞折り込みはどうしているか。

事務局 その区域を分担する販売所に折り込みをお願いしているので、市を越えて配られることもある。

委員 勤めている人には、平日のチラシは殆ど見ず土日のチラシだけ見る人もいる。それを考えると、市内の企業に情報を提供することは重要。土日のイベント等への集客効果も期待できる。

他に、「市役所便り」などを発行し、行政活動の紹介をしても良い。ホームページは検索型、広報は読み物型の利用ができる。

事務局 4月に開館した市民活動情報センターのサイトには、市のお知らせなどを入れるし組みが設けられた。市のホームページともリンクしている。

委員 先程の指摘のように、ホームページは調べたいときに検索する、広報は読ませる特徴がある。だが、広報は実際にそういう作り方になっているだろうか。お知らせが多いが、「読んでみよう」と思わせるものが必要では。

委員 情報量が多すぎると読みにくくなる。情報は、絞って削ぎ落として掲載した方が良い。

事務局 年間スケジュール内の連続掲載など、読む記事の枠も設定している。ただ、市民の世論調査を見ると、イベント等自ら参加する記事、生活の必然の記事等お知らせがよく利用されている。

委員 更新頻度は。

事務局 基本的には5日に1度になっているが、実際には緊急の更新も多く、3日に1度くらいの頻度。

委員 広報は1ヶ月に2回の発行だが、他の自治体も同様か。

事務局 近隣では、府中市、町田市は月3回だが、他の自治体は多摩と同様2回。

委員 ①(マル1)市民のお知らせなどの基準は。②(マル2)載らない情報は多いか。

事務局 ①(マル1)広さ、対象人数の多さなど。
②(マル2)記事を短縮しても1割～5分くらいはどうしても紙面に収まらない。その場合はホームページにまわすなど、別の媒体を使ってお知らせはしてはいるが。

委員 ①(マル1)メールマガジン形式の配信は。②(マル2)それに対する要望は。

事務局 ①(マル1)実施していない。
②(マル2)今のところ要望はない。

委員 予防注射など必要な情報を登録し配信すれば便利と思うが、要望がないのは不思議だ。

事務局 公式ホームページの携帯サイトを利用している人が多いからかもしれない。携帯

サイトには、特にそういったお知らせを載せるよう意識している。

委員 情報の提供は、一般的な層と特定な層を狙って使い分けるのが一般的。例えば学生はバイトをホームページで探している。だからと言ってイベントをホームページに載せても、思うようには人が集まらない。受け手の価値観が多様化し、情報が多すぎて取捨選択も難しいため、一律の情報配信では伝わらない。私たちは、学生に確実に知らせたいときは授業でビラまきをしている。クチコミが一番確実。情報伝達には「無駄」なことをある程度する必要があり、多摩市が、誰に対してどこまでその「無駄」にコストをかけられるか、との判断になるだろう。

委員 ホームページの利点は即時性。アクセス数を上げるアイデアとして、市長がブログを上げることが考えられる。流し手からの情報はえてしてはあまりおもしろくないもので、政策的な使い方をしてはあまり見られない。市長の新年挨拶のアクセスが多いことを考えると、注目は高いと思われる。ホームページのブログの良さは、すぐ記事の差替えができること。他にも、例えば審議会の委員募集のとき、前年度の委員のコメント、苦労や感想を広報に載せる、などの工夫も考えられる。まず注目を集めることは大切。攻める広報を。

事務局 ブログとまで行かなくても、市長コメントを頻繁に行うことは検討中。他の市で市長雑感を載せているケースもある。

委員 近隣と比較して費用は。

事務局 広報やHPを含め、市民への情報提供の事業単価は60円くらい。人件費まで織り込んで試算している市があまりないので近隣との比較は難しい。

委員 人件費は別にしても、次回までにデータをいただければ。

委員 健康だよりは、若いお母さんがあわてていると探せない。緊急度の高いものは目に飛び込むような形での掲載を。例えば ABCD のランクをつけ、A ランクの表示軽視を決めるなど、必要なものは見やすく目立つように。

事務局 広報の8面に健康だよりを載せているのは、中を抜いてこのページだけとっておけるようにしたもの。とっさに探せないようなことのないよう、どう工夫するかが課題。

委員 通勤、通学者への情報伝達について。新聞折り込みは、企業、団体にも行くか。

事務局 新聞をとっていれば個人と同様に配達される。しかし企業は一括して広告を捨てるケースも多いと思われる。市内在住、在勤者を対象としたお知らせも多いので配慮が必要と思う。広報を駅などで受け取ったり、広報と同日にアップホームページで確認したりと、積極的な方は情報を得られると思うが。

委員 イベント、行事の優先順は。

事務局 市民の広場のお知らせは、今のところは紙面を理由に断ったことはなく、他の記事を削ってでも優先している。ただ、掲載基準である「市内で活動している市民で構成する団体」に合致しないため断ったケースはある。

委員 経費削減するための工夫は。

事務局 郵送の見直しを昨年度行った。今までは希望者に無償だったのを、取りに来るのが難しい方は無料、それ以外の方は実費負担をお願いした。後は契約で厳しい仕様見直しをしている。

委員 広報媒体のあり方は変える余地はあまりないのか。

事務局 媒体の広がりはある。現在の利用状況は広報が1位、インターネットが2位だが、インターネットの世代が上がればその割合が逆転すると予想され、そのときは紙の見直しもありえる。

現状は、市民説明会でホームページの紹介をすると、高齢者から反発が出る状況もある。

委員 その状況であれば、広報は年配向けレイアウトにした方が良くもしいかもしれない。

委員 ホームページで若い方が検索しにくいとの声が高かった。検索の仕方も変わってくるようだが。若い方が検索しやすいようなことも

事務局 ライフスタイル別などになっていると見やすいかもしれない。

委員 私の大学はホームページのランキングで1位になったが、内部から見ると「そうなのか？」と思う。多摩市のホームページは引きやすい。

今後の進め方、アウトプットのまとめかた

委員 まとめ方については、3案ある。

①(マル1)評価シートを用いる

②(マル2)評価シートを用いず文章で示す

③(マル3)評価シートを用いつつ更に文章でも示す。

みなさんはどれが望ましいと思われるか。

私個人としては③(マル3)が良いと思う。評価シートをベースにして必要項目を盛り込みつつ、データ部分は行政で作成してもらう方法。手順は次の通り。

(1)各委員が、決算事業報告書を参考に評価シートに記入して次回持ち寄る。それをベースに意見集約をする。

(2)今までの議論、課題を大まかに文章にしてきたメモをお配りしているが、これを加工して評価シートにつける

(3)ホームページ当で市民の意見を求める

(4)委員会からの提案等に対する市の回答をもらう。

委員会からの提案とは、細かい指摘や改善ではなく、検討の余地を残しつつ課題を投げ、その回答を待つ、という形でいかがだろう。

委員 回答はコミセンに求めるのか。

委員 一次的には担当事業課に投げる。担当課では内容により運営協議会と相談することもあると思うが、回答は市から。

委員 ホームページ等での市民参画は良い方法と思う。

委員 広報については、パブリックコメントの簡略版のような形で意見を出し、市に回答を求める。

委員 これは広報誌に載せられるか。

福田 7月5日号にギリギリ間に合う。

委員 次回は評価シートを持ち寄る形で。この文章も評価シートの取りまとめにあわせて作る。

広報は、提案等を担当に投げ、回答をもらう。その回答に委員会が更にコメントを出すのは難しいと思うので、次年度の課題にする。

時間もかなり押し、評価シートの見直しもある。防犯、創業支援事業はスケジュールの点で難しいのではないか。又、両方とも始まったばかりなので次年度にむしろ送った方がよい。というわけで2事業に限定させていただきたいがいかかが。

委員 8月までのまとめとするとこれくらいしかできないだろう。初年度の試行でもあり、数をこなすことにこだわる必要はない。

委員 コミュニティセンターは全館を対象にし、広報も各種媒体をとりあげている。そう考えるとそれほど少なくはないのではないか。

委員 では、次回までに評価シートを埋めてきていただくことと、私のメモの修正点について検討していただくことをよろしく願います。「評価」と言うと、一般的にはあまり良い印象を与えない。細かい指摘がコミュニティセンターを運営している人の自治を侵害しないことに留意し、表現を緩め、検討課題を示すこととしたい。ボールを投げることを目的とした報告書作りを。

委員 今後の予定として、次回は広報についての意見交換とコミセンのシート作成。7月には広報事業の評価とりまとめ。最後は全体のとりまとめを設定させていただく。それでよろしいか。

では、委員長に進行をお返しする。

【自治推進委員会】

事務局 前回の要点録をお配りしている。何かなければ公開させていただく。

委員 議事録には、結論を示すだけでなく、こういう議論があると論点を示す役割もある。

事務局 自治推進委員会へのアクセスは、平成17年度平均では月200件強で、審議会等

の中では上位3位。

次回の予定

○7月6日(木曜) 6時 30 分～